

「襟を正す」(澤山)

今年の3月に入所致しました澤山と申します。覚えることが大変多く、日々悪戦苦闘しつつもあっという間に4ヶ月目となりました。いきなりですが「襟を正す」という言葉の意味は「気を引き締めて物事にまじめに対処する」とのことですが、私のシャツの襟は写真の様に伸びきっておりまして、私自身この襟のように伸びきらないようにこれからも気を引き締めて頑張っていきたいと思っております。今年の夏は特別暑いようですので、皆様、夏バテにくれぐれもお気を付けください。今後とも宜しくお願い致します。新人の澤山でした。



今さら聞けない 経済用語

【今月の教えてキーワード：北方領土での共同経済活動】

北方領土において日本とロシアによる合弁事業などを推進する活動のこと。北方領土を巡り日露の信頼関係を深め、問題解決に向けた一歩とするのが狙い。人の交流の拡大、漁業などの産業振興、物流環境の整備という分野で具体的な施策が検討されている。2016年12月、日露首脳会談で共同経済活動について「国際約束の締結を含む法的基盤の整備」「平和条約問題に関する両国の立場を害さない」という合意が取り交わされた。

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【天下布武(てんかふぶ)に込めた思い：織田信長】

天下統一の野望を抱き、戦国の世を疾風怒濤のごとく駆け抜けた織田信長は1534年、尾張守護代の家老・織田信秀の嫡男として生まれました。

26歳の頃、桶狭間の戦いでは数千の兵で数万の今川義元の軍勢を破ってその名を広く知らしめ、33歳で美濃国主・斎藤龍興を滅ぼして美濃を平定します。このとき信長は「井ノ口」と呼ばれていた一帯の地名を「岐阜」に改めます。岐阜という地名は、若き信長に知識と思想を授けた禅僧・沢彦宗恩(たくげんそうおん)が提案したといわれ、中国古代史に由来します。



「岐」は周の文王が岐山から天下を平定したこと、「阜」は学問の祖である孔子の生誕の地・曲阜(きょくふ)にちなんでいるといわれます。信長の本拠地となった岐阜には、平和と学問の都という意味が込められていたのです。また信長がスローガンとして掲げた「天下布武」という言葉は一見、力づくで天下を統一するといった意味に取られがちですが、その真意は違っています。同じく沢彦の進言といわれるこの言葉は『春秋左氏伝』に記された「七徳の武を備えた者が天下を治める」ことに由来し「七徳の武を備える平和な国づくりを目指す」というのが本来の意味です。「武」という文字には争いを防ぐという意味があり「暴力を使わず、徳をもって世の中を治めていこう」という信長の決意が表れていたようです。

今を生きる

先人の言葉

からだに刻んで行く
勉強が大事

国民的な詩人、童話作家である宮沢賢治の言葉。一夜漬けの勉強ではなく、心に染み渡るように、体に刻み込むように学んだことが血肉となり、将来に生きてくる。

トレンドを斬る!

置き弁とは職場にチルド弁当をストックし、食べた分だけ支払う簡易的な社内食堂のサービスです。外食よりも割安で昼休み

を有効に使えると、主に大手企業で定着しています。その置き弁が進化の兆しです。スマートフォンと連動し、冷蔵庫のロック解除や注文から支払いまでをその操作ひとつで完結、企業側の代金回収の負担も減らします。将来的には栄養管理やメニュー提案なども考えているようで、ランチ難民の救世主がIoTの力でどう変貌を遂げるか注目です。



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント: 【大きな石から入れる】

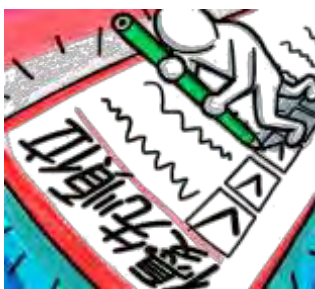
何らかの問題が起こるとき、原因のほとんどは「優先順位」にあるそうです。

誰を、何を、どの状況を、どのタイミングを優先するかで経過が変わり当然、結果も変わります。思い出してみてください。人間関係のこじれも仕事上のミスも優先順位を間違えなければ避けられたものが多かったのではないのでしょうか。経営はシミュレーションに始まりシミュレーションに終わるといわれますが、シミュレーションとは要するに優先順位の付け方です。

優先順位の考え方として有名なエピソードがあります。ある大学の授業でのこと。教授が大きなつぼに石を詰め、つぼが石でいっぱいになると学生に聞きました。

「このつぼはいっぱいになったでしょうか?」。学生たちは「はい」と答えますが、教授は「本当に?」と言って砂利を取り出し、つぼの中に流し込んで石と石の間を埋めました。そして学生に尋ねます。「このつぼはいっぱいか?」「いいえ、違うと思います」。

教授は次に砂を取り出してつぼに流し込み「このつぼはいっぱいか?」「いいえ」と同じやり取りを繰り返した後、さらに水の入ったバケツを取り出しました。つぼの縁まで水を注いだ教授は、学生に最後の問いを投げかけます。「私が何を言いたいかわかるだろうか?」。



皆さんは教授の意図を理解できたでしょうか。どんなに予定がいっぱいでも努力すればもっと予定を詰められる。これは学生の答えと同じですが、教授の言わんとすることは違います。教授いわく「大きな石を先に入れないと、あとから入れようとしても入らない」。つまり、物事には優先順位があると教授は言いたかったのです。「大きな石」とは自分の一番大事なものの。大きな石を最優先しないで砂や砂利から手を付けると、一番大事なものにかかる時間がどんどん減ってしまいます。商売というつぼにあなたは何かから入れますか。このつぼが人生そのものなら、あなたにとっての「大きな石」は何ですか。商売も人生も優先順位を意識すると、きっと質の良いものとなるでしょう。

トナリの

本棚



【みかづき】

三世代にわたり塾を営んだ家族の物語です。昭和36年、珍しかった塾を立ち上げた親世代。ベビーブームと経済成長を背景に発展した子世代。塾に通えない子どもを助けようとする孫世代。読み終えたときタイトルの意味が心に響きます。

船越税理士事務所

〒620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail: info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております◎◎◎◎◎◎